

ごあいさつ

平成26年度 花蹊記念資料館紀要『にいくら』20号をお届けいたします。

花蹊記念資料館は現在、館長、課長、主任、嘱託職員、業務委託職員2名というスタッフのもと、資料整理・保管方法の整備等をはじめ体制を整えて、皆さま方にどのような展示を見ていただくかという点に腐心し、日々業務に励んでおります。その甲斐あって、各方面から寄贈いただいた資料の整理が進み調書の作成等が次第に展示内容に反映できるような形に整って参りました。また、同じくご寄贈いただいた図録が図書館との連携により、オーパックス検索による閲覧が可能となりました。貴重な図録も含まれており、その数2,489冊にのぼっております。多くの方々の利用に供することができるものと思っております。

本紀要には、昨年の特別研究助成費報告「教育研究への活用を目的とする写真画像を含めた民俗資料データベースの考察」に続く「今」をどう残していくのか、という視点のもとに台所道具・育児用具にかかわる写真資料公開に関する考察2本、跡見花蹊の「四季花卉図」をどう読み解くか、日本画の系譜の中に位置づけようとする論文を掲載いたしました。学芸員課程の実習に関するご報告は、例年通り学芸員課程ご担当の村田 宏教授にご執筆いただきました。本年度も多くの学生が「学芸員資格取得」のために学芸員実習を通して身につけた成果を博物館実習生模擬展示と題する自主企画展示実習として発表いたしました。夕方遅くまで展示のための作業をしていた学生諸氏の姿は、良い展示をしたいという熱意にあふれているように見受けられました。この時期の展示は毎年のことですが、多くの後輩学生たちになかなか資料館に足を運んでいただくことができない時期にあたっており、それが何とも残念です。

巻末には、26年度の資料館の活動をご報告しております。多くの方々に、足を運んでいただける展示を心がけてゆきたいと考えております。今後とも館の活動に関して、ご教示・ご協力をいただければ幸いです。

平成27年3月吉日

跡見学園女子大学花蹊記念資料館
跡見学園女子大学学芸員課程